

機関番号：14201  
 研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2008～2010  
 課題番号：20530884  
 研究課題名（和文） ポータルサイト構築による成人期知的障害者の情報活用能力育成と学齢期との接続の研究  
 研究課題名（英文） Transition Support for Mental Retardation with Web Site of Cellular Phone on Special Support Education  
 研究代表者  
 黒田 吉孝（KURODA YOSHITAKA）  
 滋賀大学・教育学部・教授  
 研究者番号：40111885

## 研究成果の概要（和文）：

①知的障害者の就労に必要な情報や情報モラル育成に関するコンテンツ等を掲載したサイトを構築し、自発的・共同的な学習機会を提供した。②在校生は、学校での座学や実習を通じた学びを基盤にしつつ、電子掲示板を通しての卒業生との関わりを通して卒業後への自覚を形成するようにした。③卒業生は、現場でのより具体的で専門的な学びを在校生と共有することで自らを振り返り、自己認識を向上することに寄与した。④知的障害者による自発的な学びの共同体によるキャリア教育の可能性と支援の方法を検証した。

## 研究成果の概要（英文）：

(1) The Web Site of Cellular Phone which published information required for the mental retarded person's working, the contents about information-morals, etc. was built. And the opportunity of spontaneous and cooperative learning was provided. (2) The students formed the consciousness to the graduation through the graduate. (3) The graduate looked back upon oneself by sharing more concrete and special learning with the students, and these activities were contributed to develop their self-recognition. (4) The possibility and the method for the support of career education through the community of spontaneous learning by the mental retarded persons were verified.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究代表者の専門分野：発達障害

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：知的障害、ポータルサイト、情報活用能力、社会参加

## 1. 研究開始当初の背景

(1) われわれは、学齢期知的障害児童生徒の情報教育について、特別支援学校での研究を基盤に幅広く、知見を積み上げてきており、

学校での実践においても取り入れてきている。

(2) しかしながら、これらの取り組みは、学校という閉じられた空間での、保護された

空間での成果であることに留意する必要がある。というのも、今後は、これらの成果を生かし、学校卒業後の生活を豊かにし、コミュニケーションの広がりをも可能にする、成人期知的障害者への情報活用能力育成の新たな支援が求められていると考えた。

(3)そこで、われわれは、今回、青年期・成人期知的障害者、ならびに、高等部生に対するポータルサイトを構築し、コミュニケーション支援のみならずモラル学習等の幅広い観点からの情報活用能力の育成と移行支援の方法をはかった。

## 2. 研究の目的

知的障害児童生徒の場合、その障害特性から、情報活用能力とその支援方法について、未知の所が多かったが、われわれは、ここ数年、知的障害の特別支援学校での研究を蓄積し、例えば、「高度情報通信社会に生きる特別な支援を必要とする子どもの情報活用能力育成に関する研究」(太田、他)等で成果を公表してきた。学齢期知的障害児童生徒の情報教育について、特別支援学校での研究を基盤に幅広く、知見を積み上げてきており、学校での実践においても取り入れてきている。前述したように、これらの取り組みは、学校という閉じられた空間での、保護された空間での成果であることに留意する必要があると考えた。というのも、今後は、これらの成果を生かし、学校卒業後の生活を豊かにし、コミュニケーションの広がりをも可能にする、成人期知的障害者への情報活用能力育成の新たな支援が求められていると考えるからである。われわれが関係している特別支援学校卒業者の集いの場である青年学級参加者の中に、出会い系を含む、ネット詐欺等の被害にあっている者も少なからずあり、学齢期の情報教育とも接続した、系統的な支援が、知的障害児者の情報教育に現在、求められていると考える。そこで、以下の研究目的を設定した。

(1) 知的障害者の就労に必要な情報や情報モラル育成に関するコンテンツ等を掲載したサイトを構築し、自発的・共同的な学習機会を提供すること(2) 在校生は、学校での座学や実習を通じた学びを基盤にしつつ、電

子掲示板を通しての卒業生との関わりを通して卒業後への自覚を形成すること(3) 卒業生は、現場でのより具体的で専門的な学びを在校生と共有することで自らを振り返り、自己認識を向上すること(4) 知的障害者による自発的な学びの共同体によるキャリア教育の可能性と支援の方法を検証することを目的とした。

## 3. 研究の方法

(1) 成人期知的障害者への携帯電話等を使用したポータルサイトを構築し運営するための方法を検討する。このサイトに参加することでの学びあいの体験の有効性を実感し、情報活用能力を高めていく。

(2) サイト構築の目的がコミュニケーションを自発的におこなえることを目的とし、やりとりする中で社会性やモラルを身につけること社会で通用するマナー等を身につけることであることから、その目的にふさわしいモラル学習等コンテンツを検討する。

(3) 学齢期知的障害児童生徒の情報教育との接続をも課題にしていることから、主に、高等部の児童生徒への支援のあり方・取り組みもこれまでの成果を踏まえ検討する。知的障害生徒に対する情報教育の授業の内容を検討する。

## 4. 研究成果

(1) 我々の先の研究では、生徒と卒業生による自由記述をテキストマイニングの手法により分析を行った。これまで、知的障害のある児童生徒の記述について、文脈を追う分析が主流であった。テキストマイニングの手法を活用したのは初めてであり、先進性を持っていると言える。

分析法としては、質的分析と量的分析をおこなった。①前者については、例えば、次のようなエピソード分析をおこない、学年差や卒業生の教育効果等明らかになった。クリーニング工場での現場実習も最終日を迎え、2年生からはやりぬいた喜びが述べられている。また、「3学期は個別実習を頑張ります」と、次の実習に対する意気込みも述べられている。卒業生からは、労をねぎらう言葉に加え、「次に生かせるように」と付け加えられ

た。1年生は生活訓練合宿が終わったことは報告しているが、詳細な記述はない。掲示板への書き込みのスキルがまだ高くないということもあるが、2年生が書き込んだような現場実習の新鮮な感動が少ないことも理由と考えられる。卒業生からは一人暮らしについて「お金の使い方と家事ができること」がアドバイスされた。この卒業生はこれまで社員寮から通勤していたが、現在は一人暮らしをしている。端的だが、実感のこもったアドバイスである。次回の生活訓練合宿において一人暮らしを体験する生徒は、意欲を持って取り組みを始めることになった。②後者の量的分析として、「TRUSTIA/R.2」を使用し、自由記述の文章の分析を行った。

「TRUSTIA/R.2」は自由記述の文章を解析するツールで、読み込んだデータを解析し、データ全体の大まかな傾向をつかむことができる。データ総数、語句数、品詞ごとの出現比率などの基本情報から、名詞句、形容詞句、動詞句それぞれの統計的データを表示できる。学年別の文章データを比較では、文書総数は、2年生(84)、1年生(18)、卒業生(56)と2年生の記述が多い(表12)。文字数の平均は2年生と卒業生が28語で、1年生が17語と少ない。2年生と卒業生が長い文で伝えようとしているのに対して、1年生は表現が少ないと言えた。文書中の品詞についても、2年生と卒業生がは大きな差はない。一方、1年生は文章数が少ないが、動詞句の割合が高い。これは一文が短いためと考えられる。また、名詞句の頻度比較では、1年生のデータが少ないため、頻度の高いものは見あたらない。一方、2年生は「仕事」や「実習」「練習」の頻度が高い。また、実習の報告を行う関係で、「今日」「明日」の頻度も高い。それに答える、卒業生も「仕事」「実習」の頻度が高い。あわせて、「これから」「皆さん」といった呼びかける名詞句の頻度が高い。就労・移行をテーマとしたWeb掲示板が機能していると考えられる。

(2) 成人期知的障害者自身が参加しコミュニケーションをおこない学べるサイトは他になく、本研究のWEB活用によるポータルサイト構築は、特別支援学校を卒業後の情報活用能力を育成する貴重な場となった。本研究

のWEB活用によるサイト構築のシステム内容は、本携帯電話対応電子掲示板システムであり、①卒業生・生徒がメッセージを送信するための携帯電話、②支援者が使用する掲示板管理用PC、③携帯電話からのコメントデータの登録や、情報の発信を行うサーバからなるクライアントサーバ型のシステムが有用であった。

(3) 学齢期の知的障害児童生徒への情報教育を卒業後の実態等を連動させることでより深く検討することができた。高等部での実践成果を紹介してみる。高等部では、学部目標「よりよい社会自立をめざして」について、「①自分の力で生活を切り拓く事のできる行動力を身につける」「②対人関係を広げ、豊かな社会性を身につける」「③たくましい心と体で働く意欲を高める」を基本方針とし、様々な規模や質の異なる学習集団を組織し教育に取り組んでいる。授業を行った、基礎集団としてのペッパーグループでは、特にキャリア教育の推進を意識したカリキュラムにより日々学習を積み上げている。そこで、対人関係を広げ、豊かな社会性を身につける学習の一環として、「情報活用能力の育成」が、重要な課題の一つである、情報モラルの育成(携帯電話の利用上のマナー)を取り上げた。

授業単元では携帯電話を持つことによって起こる様々な場面を想定し、各場面ごとに自分たちならどうするかを考えさせることで、マナー向上や、モラル育成を図った。実態をふまえて『アサーティブな自己表現方法』について実践を行った。アサーションとは、「自分のことをまず考えるが、他者をも配慮したやり方」なのである。授業では、簡単な対人関係場面を設定し、自分ならどうするかについて考えさせた。その後、出た意見を付箋紙に書かせ、黒板に貼り分類し、3種類の表現方法があることを確認させた。ロールプレイにより、自閉症スペクトラム児が、当事者になったつもりで自分らしい意見を述べることができたことが成果である。また、3種類のロールプレイ(顔見知りの大人が割り込んできた場合・友達に割り込んできた場合・見知らぬ怖そうなお兄さんが割り込んできた場合)により、アグレッシブな意見とともに、

ノンアサーティブな意見がたくさん出たことも成果であった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ①「特別支援教育における遠隔共同学習に関する研究」太田容次、黒田吉孝、滋賀大学教育学部附属教育実践総合センター紀要、18巻、71-78、査読無、2010.
- ②「障害のある子どものためのアシスティブ・テクノロジー・コンシダレーション方法の開発」大杉成喜、日本教育情報学会誌、25(3)、15-27、査読有、2009.
- ③「高等部自閉症生徒への携帯Webサイト活用による相互コミュニケーションの可能性に関する障害特性からの理論的考察」黒田吉孝、大杉成喜他、滋賀大学教育学部紀要Ⅰ：教育科学、59巻、49-56、査読無、2009.
- ④特別支援教育における携帯Webサイトを活用した就労・移行支援の試行、大杉成喜・木村政秀・三川綱一・黒田吉孝、滋賀大学教育学部紀要Ⅰ：教育科学、58巻、111-122、査読無、2008.

[学会発表] (計2件)

- ①「携帯電話Webサイトを活用した高等部現場実習の支援(2)ーテキストマイニング手法による発話データの分析ー」大杉成喜、石部和人、黒田吉孝、日本特殊教育学会第47回大会、2009.9.20、宇都宮大学
- ②「ポータルサイト構築による知的障害者の情報活用能力育成ー成人期と学齢期の接続の研究ー」木村政秀、大杉成喜、黒田吉孝、他、特殊教育学会第46回大会、2008.9.19、米子コンベンションセンター

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計 件)

[その他]

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

黒田 吉孝 (KURODA YOSHITAKA)

滋賀大学・教育学部・教授

研究者番号：40111885

### (2) 研究分担者

太田 容次 (OTA HIROTSUGU)

滋賀大学・教育学部附属特別支援学校・  
教諭

研究者番号：60435831

大杉 成喜 (OSUGI NARIKI)

滋賀大学・教育学部附属特別支援学校・  
教諭

研究者番号：10332173

### (3) 連携研究者

( なし )

研究者番号：